別紙様式

令和 4 年度　学校評価シート

学校名：和歌山県立紀伊コスモス支援学校　　校長名：上村　弘幸

目指す学校像・育てたい児童生徒像

「共生社会の中でよりよく豊かに生きる人間の育成」を学校教育目標とし、教員集団が高い指導力を有するとともに、課題解決に向け組織力を発揮できる学校とする。
　目指す子ども像を「自分らしく豊かに生きる子ども」とし、個々の発達の段階に応じ、チャレンジすること、自他を大切にすること、思いを伝えること、役割を果たすことができることを目指す。

学校評価の公表方法

育友会役員会、学校運営協議会等を通じて自己評価及び学校関係者評価の結果について公表する。また、本校ホームページ上に記載する。

現状・進捗度			
	A	十分に達成している。	（80%以上）
	B	概ね達成している。	（60%以上）
	C	あまり十分でない。	（40%以上）
	D	不十分である。	（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組				評価（２月２７日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	全教員が、個々の児童生徒の的確な実態把握に基づき、つけたい力から授業をデザインできる専門性の向上を図る。	C	つなぎ愛シート、個別の指導計画に基づき指導計画を立案する	**校内授業研修（10 回）**	B	様々な研修や公開研究会を通じて児童生徒の実態を踏まえ指導計画を立案できている。	次年度、本校の教員として備えておくべき基本的知識や技能をテーマに、年間を通じた職員研修を実施する。本校の歴史、学校文化、障害理解から教育課程の成り立ちや授業作り、評価のあり方等について、月一回の研修実施を年間計画に位置づける。
			個別の指導計画において、的確に観点別学習状況を評価する	**学習評価研修（3 回）**	C	各研修等を通じ教員間で３観点について共通理解できたが、各学部や教科別の整理が必要である。	
			ICT 活用により教科指導の効果を高め情報活用能力を育成する	**ICT 研修（3 回）**	C	研修内容として ICT 機器の活用紹介が中心となり、児童生徒への効果測定まで至っていない。	
2	児童生徒の健康の増進及び学校安全と危機管理の徹底を図る。	C	ヒヤリハット報告や危機管理の啓発により危機意識を高く保つ	**緊急時対応研修（2 回） ヒヤリハット随時共有**	B	怪我や発作、医療的ケアに係る緊急対応等について研修を踏まえ、教職員の対応意識は高い。	引き続き感染症対策や医療的ケアの基本を全職員で共有し、各学部で随時の判断を行いながら学習活動を実施する。事故や怪我、ヒヤリハットの事例共有について、管理職から強く発信を行う。
			医療的ケアに関する校内体制を再確認し新しいケアに対応する	**医ケア委員会（随時） 医ケア研修（2 回）**	B	学部を超え校内体制を構築し、学校看護師と共に対応できた。	
			変化する感染症対策に対応しながら学習活動を保障する	**学校保健安全委員会（随時）**	A	感染症対策の基本を全職員で共有し、各学部で随時の判断を行いながら学習活動を行った。	
3	キャリア教育・職業教育の充実を図り、自立に向け必要な基盤となる能力の育成を図る	C	キャリア発達の視点で、教育課程の再確認を各学部で実施する	**キャリア教育評価シートの作成と使用**	C	キャリア教育評価シートの見直しを完了する。シート活用による教育課程の確認を次年度行う。	今年度見直しを行ったキャリア教育評価シートを活用し、個々の児童生徒のキャリア発達を踏まえながら、個別の指導計画を作成すると共に、類型や教育計画の見直しを行う。全教員を対象に進路研修を実施する。
			高等部で校内技能検定や積極的な現場実習を実施する	**一般就労希望者の就職率 80%以上**	B	校内技能検定、高等部１年生時から実習を実施する。一般就労希望者就職率～66.6%（4/6）	
			学校運営協議会や地元企業との連携内容を授業改善に生かす	**キャリア教育評価シートの作成と使用**	C	キャリア教育評価シートの見直しを完了する。シート活用による教育課程の確認を次年度行う。	
4	校内の教育資源を最大限活用し、幼稚園・保育所等や小・中・高等学校への支援活動の充実や特別支援学校間での連携体制構築を図る。	C	他校種の支援活動において、つなぎ愛シート等の活用を促す	**相談活動の使用率 100%**	B	コロナ禍であったが各校種合わせ 50 件を超える相談に対応する。シートの活用について啓発できた。	特別支援学校のセンター的機能の更なる充実を目指し、学校ＨＰでの発信力を高める。また、本校開催研修参加について、リモート参加を含み様々な形態での参加ができるように工夫する。
			通級指導教室や特別支援学級を担当する教員研修を実施する	**公開授業研・校内研修会への参加人数 20 名**	B	8 月にサマーセミナーとして地域研修会、11 月に公開授業・研修会を開催し計 25 名の参加を得た。	
			高等学校への相談支援活動を充実させる	**校区内高等学校との連携率 100%**	C	高等学校の特別支援教育推進に係るアンケートを実施し、連携の方策について発信予定である。	

学校関係者評価（２月２７日実施）

・コロナ禍において､学校活動を一律に制限するのではなく、できることやできる方法を都度検討しながら活動保証できたのが素晴らしい。
・以前から校内研修の講師をさせていただいているが、参加される教員が熱心である。理論の部分と事例研修など実践の部分の二段構えで行っているが、子供の指導に役立てていただいてると感じる。
・地域の医療機関との関係づくりや連携ができてきており、相互の信頼感もでてきている。また、注入栄養を単なる医療的行為でなく教育として行っていることや、コロナ禍において保護者の協力を得て教育的な配慮の中での感染予防を行っていることが素晴らしい。
・校内技能検定においては、校外のさまざまな職種の方に協力いただき実施していることが素晴らしい。参加生徒の意識も高く、終わった後の講評を聞きに来る時の生徒の表情や受け答えがしっかりしており、平素の授業の中で仕事に対する意識を高めていただいていると感じた。今後の取組において、臨機応変に対応できる力を身につけられるような仕掛けをつくってほしい。また、自己評価や自己反省を大切にする取組も大事にしてほしい。
・高等学校との連携については、高等学校自身が特別支援学校の教育相談について情報をもっていないか、利用についてハードルが高いと感じている可能性がある。高等学校との連携に向けては宣伝するなどできるところは協力したい。
・育友会としては、児童生徒が安全で、安心して楽しい学校生活を送るため、引き続き情報提供や学校、地域と連携していきたい。次年度に向けては、防災の取組において、災害が起きる前の対応等の対策が必要だと考えている。
・和歌山市少年センターでは、児童生徒指導部と連携して、少年相談事業や保護者相談、非行防止について協力ができるので活用してほしい。